

令和6年度 京都府立西舞鶴高等学校 通信制 学校経営計画（スクールのマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 社会生活の基盤となる力を身につける。	1 個に応じた学習指導や面接指導、放送視聴制度や教科スクーリングの充実により、単位修得率が向上した。次年度も単位修得に向けた考查前学習会、学習支援に係る取組をさらに充実させたい。	【「校訓」を踏まえた、総合的な人間力の育成】 「究理（真理を求め勉学に努める）」「尚志（高い理想を抱きその実現に努める）」「敬人（人を敬愛し誠実に生きる）」の精神を踏まえつつ、「努力」と「友情」を基軸に社会人基礎力の育成を図る。
2 望ましい勤労観・職業観を育成し、社会的自立を図る。	2 個別指導や進路説明会等を通じ、きめ細やかな進路指導を実施し、希望進路の実現を図ることができた。次年度も、生徒のニーズに応じた進路指導をさらに充実させたい。	1【究理】学習指導の充実 面接指導や個別指導棟等を充実させるとともに、自学自習取り組む姿勢を育む。
3 生涯学習の場（学び直しの場合）としての機能を充実させる。	3 生徒の主体性を育む学校行事、ソーシャルスキルトレーニングを通じ、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。今後も、多様化する生徒の特性に応じ、個に応じた指導をさらに充実させたい。	2【尚志】進路指導の充実 個に応じた進路指導を充実させるとともに、希望進路実現のための指導充実を図る。
		3【敬人】コミュニケーション能力の向上 コミュニケーションスキルの向上を図るとともに、各種教育活動を通して、多様な他者を敬う心を育む。

評価領域	重点目標	具 体 的 方 策	評価			成果と課題
組織・運営	多様化する生徒の特性に応じた学校運営の充実を図る。	家庭及び関係機関との連携を深めることで、生徒の特性を理解し、安心・安全に学校生活を送れるよう配慮する。	A	B	B	生徒の個性や状況に配慮しながら、家庭や関係機関と連携できた。教職員向けの通信は発行できなかった。 個別での学習指導を求める生徒に対して、適切に支援することができた。 毎週連絡会を開催し、生徒の様子から対処すべき課題までを共有することができた。 HP等の活用、メディアへの広報活動ともに不十分であった。通信制の実態を広く理解してもらえよう、改善に努めていく。 部活動では、陸上競技の京都府大会で2名が優勝する等の活躍があった。生徒生活体験発表大会でも京都府2位の高評価を得た。新行事を開催するなど、生徒会活動も活性化した。
		教職員向け通信を継続的に発刊し、学校運営活性化に向けた目的意識の共有を図る。	C			
	生徒に係る各種情報の共有を図り、速やかな対応を図るとともに、各生徒に対する効果的な支援のあり方を模索する。	個別最適化され、各生徒の資質・能力に合致した学習指導のあり方を探るとともに、教科スクーリングやスタディサブリの効果的な活用を推進する。	A	A		
		連絡会等を通じて生徒に関わる情報を共有し、効果的な指導（コミュニケーション能力の育成、進路実現に向けた指導）につなげる。	A			
	地域社会における通信制への理解・認識を深めるため、広報活動を充実させる。	学校HPや学校紹介動画を通じ、地域社会に向けた情報発信を積極的に行う。メディアへの広報活動も展開する。	C	B		
		部活動や地域連携等、生徒の活躍の場を広く求め、生徒の自己有用感を高める。また、生徒の活動を通信制への理	B			

		解につなげる。				
教 務	観点別評価を生かした評価方法を確立し、生徒の学力、思考力、学習意欲を伸ばす工夫をするとともに適切な評価を行う。	観点別評価の適切な運用方法について教員間で研修する。	A	B	観点別評価の規準を客観的に定めた上で入力シートを作成し、比較的簡単に評価を出せるよう、工夫した。 指導内容については十分交流することができなかった。 連絡会等を通じて、生徒の諸課題については常時共有した。その中で状況に応じた適切な評価の方法なども検討し、適用したが、一定のルールとして定めることはできていない。	
		レポートや面接指導における指導や評価の内容について教員間で研修する。	C			
	課題を有する生徒の状況を教員間で共有し、効果的な指導や評価のあり方について検討する。	個々の生徒の学習上、生活上の課題について、情報共有する。	A	B		
		関係分掌と連携しながら、課題を有する生徒への指導や評価の方法を具体的に検討する。	B			
	TeamsなどICTを活用し、円滑に学習活動を進めていく。	生徒がTeamsを活用するよう促すとともに、学校からの連絡や授業等においても有効に活用する。	B			
生徒指導	校内規律を維持する。	特に年度当初（４・５月）のスクーリングが落ち着いてスタートできるようにする。	A	B	A	落ちついたスクーリング環境を維持することができた。暴力、いじめ、喫煙などはなかった。 職員室の入室についてマナー向上をはかることができた。
		安全・安心な学校を維持するために各学期の初めにルールの確認と現状について積極的に説明・発信を行う。	B			
	生徒の人権を大切にした生徒指導を行う。	スクーリング日などの生徒の様子や本人、家族、関係者との話の中から、生徒理解を深める。	A	A		社会人、成人も多い中で全体として丁寧な対応を心がけた。 各市町の福祉機関などとの連携を深めることができた。
		必要に応じて支援に係わる関係各機関との連携を深める。	A			
	自主活動や学校行事を活性化 する。	学校行事や特別活動への積極的な参加を促す。また参加しやすい環境と参加してみたいくなるような工夫をする。	A	A		生徒会役員会の実施回数を減らしたが、毎回活発な活動ができた。 特に彩雲祭では全日制部活動（書道・美術・吹奏楽）との交流やステージ発表など新たな取り組みを行った。茶話会を２回実施した。友達や仲間作りのきっかけになった。非常に好評であった。
		生徒会役員が色々な意見を出し合える雰囲気と環境を整える。自主性と協調性を育てながら昨年度よりも前進したものを作り上げていくように指導していく。	A			
	交通災害を防止する。	自動車・バイク通学許可証の発行・登録をスムーズに行えるよう工夫する。また交通安全に対する意識の向上を目指す。	B	B		登下校時の交通事故等ではなかった。ただし、自動車・バイク通学生徒の登録を早く完了するために、方法の簡素化と継続登録について考える必要がある。校門の見守りは継続して実施できた。
		スクーリング日の登校時に校門での見守り（挨拶・声かけ）を行う。	A			
	自分の進路を考えることがで	進学希望の生徒に対しては、進学に関する情報を適切に	A		進学・就職希望生徒の進路実現	

進路指導	きるように指導し、希望する進路を実現できるように取り組めるように支援する。	提示し、支援する。 ----- 就職希望の生徒に対しては、働くことの意味をしっかりと考えることができるように指導する。	B	B	A	のために情報共有を常に行い、個に応じた丁寧な指導を心がけた。 就職希望生徒には、就職説明会、高卒求人票の見方、企業見学の連絡、履歴書指導、面接指導等を丁寧に行った。その結果、多くの生徒が高卒求人による就職を決定することができた。 進学希望者に対しては、模擬試験、オープンキャンパス指導、生徒の希望に応じた出願の相談も丁寧に対応した。多くの生徒が希望の専門学校や大学に進学することができた。 進路実現のために、早い段階から、現在と将来を見据えたキャリア教育を実施する必要性がある。
	進路未確定や、早期離職とならないように、適切に指導・支援を行う。	担任と連携して、生徒・保護者の希望等を理解して、指導・支援を行う。また、生徒の持つ課題等も理解し、生徒自身にも理解させ、改善のための支援を行う。	A			
	進路に関する情報を教員間で共有する。	最新の進路情報を収集して、教員間で共有して生徒の指導に活用する。	A			
保健・安全	通信制生徒ならではの健康課題や生活実態を把握し、指導や支援に務める。	健康診断や生活習慣アンケートを通し、生活実態を把握させ、より良い生活習慣を身につけさせる。	B	A	B	健康診断や保健学習を通して、健康課題や生活実態の把握に努めているが、事後指導を徹底し、改善する実践力には至っていない。 配慮を要する生徒の把握と、教職員全体での情報共有はできている。よりよい支援や対応のあり方も教職員間で検討しているが、それを実践するにあたっては、生徒本人や保護者の意向と合わないこともある。 スクールカウンセラーを中心に、コミュニケーションの取り方や人との付き合い方などを学ぶ機会をもっているが、苦手なところに目を向けるのが難しい生徒が多い。
		配慮を要する生徒を把握して教職員全体で共有し、よりよい支援へつなげる。教職員間で具体的な事例をもとに対応のあり方を検討し、必要に応じて、関係機関等との連携を図る。	A			
	生徒が自分自身の健康を見つめ直し、健康に生きるための知識や実践力を育む。	健康診断および事後指導等の充実を図り、健康的な生活習慣を意識して実践していく力をつけさせる。	B	B		
		薬物乱用防止教室や救命講習等の保健学習を実施し、健康で安全な生活習慣を意識させる。	A			
	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを適切に活用し、心の問題の早期発見・早期対応に務める。	メンタルヘルスに関する学習を実施し、カウンセリングを周知・啓発するとともにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携・協働していく。	B	B		
		コミュニケーション講座の中で話すことに慣れる機会を持ち、苦手としている人との付き合い方を、社会で生きていく力を身につけさせる。	B			
事務部	生徒及び教職員が安全・安心な生活が送れるように教育環境整備に努める。	通信教育の特性に応じた教育活動を進められるよう、効果的な予算執行に努める。 施設・設備等の適切な維持管理に努める。更に教職員とも情報共有し、危険箇所の早期発見及び早期対応、修繕計画の立案を行う。	B		B	予算執行について、高額な物品等は、要望を満たすことができなかったため、次年度改善していきたい。 電話・窓口対応については、丁寧な対応を行うことができた。 生徒の修・就学支援については、個別にきめ細やかな対応を行っていたが、不十分な事象もあり、
	信頼される学校づくり	生徒、保護者等、来客者及び地域住民に対する窓口対応、電話対応等明るく丁寧な対応を行う。	A			

	生徒の修・就学支援の実現	保護者等や生徒に対する十分な制度の案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金・教科書補助事業・その他各種奨学金等の援護制度を円滑に実施する。	B	今後の課題とし、検討・協議が必要である。 会計事務処理について適正に処理を進めることができた。職員の相互チェックを一層高め、事務処理遅延や軽易なミスを生じないように引き続き努めていく必要がある。
	適切な会計事務の執行	会計研修に積極的に参加し、会計事務全般に関する知識を深め、適切な事務処理に努める。 職員相互のチェック体制を強化する。	A	

学校関係者評価委員会による評価	通信制における学習形態の特性、多様な生徒が在籍している状況を踏まえた上で、引き続ききめ細やかな学校運営をお願いしたい。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	通信制教育の特性を教職員間で再確認しつつ、外部関係機関とも連携し、様々なニーズに対応したきめ細やかな学校運営を図る。 引き続き、分掌間の情報共有や連携を深めながら学校運営にあたる。ＩＣＴ機器の利活用をさらに推進する。
---------------	---